

# 翠風園 ひかり通信

Vol. 4 新春号



- 発行月： 平成21年3月
- 制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会  
デイサービスセンター翠風園  
ヘルパーステーション翠風園  
グループホーム翠風園  
理事長 野水 清志
- 所在地： 〒950-1236  
新潟市南区高井東2丁目13番33号
- 連絡先： 025-362-7600
- ホームページ： <http://www.suifuen.jp/>



ご挨拶 ヘルパーステーション主任  
南 久子



春雪の中にも黒土を割り、伸び行く新芽に春の息吹を感じずる季節となりました。ヘルパーステーション翠風園は、今年の三月で満六年を迎えることが出来ました。これも地域の皆様をはじめ、背後から支えて下さる皆様のお蔭と心から感謝申し上げます。開設から無我夢中で此処まで参りましたが、日を重ねると共にこの仕事の奥深さに魅せられ手応えを感じております。

訪問介護の仕事は利用者様のお家の中に入らせて戴き、決められた仕事をさせて戴くわけですが、仕事を通して利用者様の考え方、或いはその方の人生の足跡に触れさせて戴ける機会も多く、この様な事は減多に出来ない体験であると思っております。私達の二倍、三倍の歴史を重ねて来られた利用者様の、人生の集大成の時期に関わらせて戴ける事は実に尊く意義深い事です。この素晴らしい機会を確りと活かし、これから年を重ねていく私達後輩の道標とさせて戴きたいと思っております。

そして日々の仕事を通してつくづくと感じることは「仕事は人がするのだ」という事です。仕事を通して人格を磨き、又お互いに磨きあって一人一人が皆様の信頼に足る人間となれるよう研鑽を続けて参りたいと思えます。その為には自分の不足の点、間違っている所を人様が言っ下さった時は有り難く聴かせて戴き、気が付いた事は勇気と愛を以って言わせて戴く。そのように生きていこうと思っております。

私は、私の先生に教えて戴いた「人様から忠言を戴いた時はまず『有り難うございます』と思いなさい。たとえ陰口であっても有り難く聴かせて戴きなさい。そうしなければ自分の人格を磨くことは出来ません」というお言葉を忘れることが出来ません。翠風園では「言って戴いて有り難うございます。言わせて戴いて有り難うございます」を合言葉に、お互いに高めあっている土壌を作って行きたいと奮闘努力しております。この気風を確りと自分のものにして、ヘルパーにとって最も大切な信頼して戴ける人格を作って行きたいと思っております。

# デイサービスセンター

## グループホーム

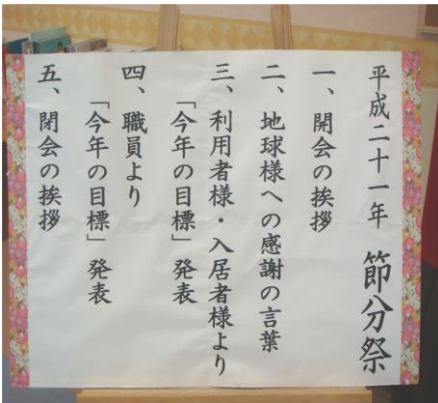
### 2月合同行事 節分祭

二月十五日から二十日まで、デイサービスセンターで節分祭を行いました。

デイサービスセンターでは、昨年より節分祭は豆まきではなく、旧暦の新年を祝い、利用者様・職員がそれぞれ『**今年一年間の目標**』を定める行事として行ってきました。

また、今年はデイサービスセンターとグループホームが心を合わせ、合同で行事を執り行いました。今までの行事はそれぞれの事業所で行っていた為、合同の行事は今回が初めてでした。

利用者様と職員の「一年の目標」や印象に残った出来事を織り交ぜながら、四ページにわたってご紹介させて戴きます。



節分祭当日の式次第です

### ◎デイサービスセンター利用者様より

まず、デイサービスセンターの利用者S様は、「自分を大切に出来ない、他の人を大切にすることは出来ないから・・・」とお話をされ、

**自分を大切に**にする

という目標を立てられました。

また、利用者のK様は、「今の幸せを見る目を持ちたい。みんな幸せだけでも、それが見えないと不平不満が出てしまいます。

現実の目ではなく、心の目で見る様になって行きたい」とお話をされ、

**柔らかい心を持ち**

**幸せの見える目を持つ**

という目標を立てられました。

更に、節分祭の終了後に皆様から感想をお聴きしました。利用者様のT様から「とても胸がスカッとなりました。この様な行事をしている所はどこに行ってもありませんよ。本当に何でも素晴らしい。有り難うございました」と話して下さいました。



お一人ずつ目標を発表されています



蘭玉がお祭りを一層華やかに彩ります



## グループホーム入居者様より

続きまして、グループホーム萌木（もえぎ）と花浅季（はなあさぎ）の入居者様の「二年の目標」をご紹介させて戴きます。

グループホームの入居者のY様は、「翠風園に御縁があった事がとても幸せで、余生をここで笑顔で健康に過ごして行きたい」とお話をされ、

**幸福に暮らせる事へ感謝をし、  
笑顔で健康に過ごして行きたい**

という目標を立てられました。

また、入居者のH様は、「私は身体が弱く小さいので無理をせずに、皆様と仲良く過ごして行きたいと思っています。日本は四季折々の季節が味わえて、いい国だなあと常々感謝しています」と言われて、

**春夏秋冬、季節が巡って来ますけど、  
皆様と共に仲良く元気で楽しく一年を  
過ごしたいと思います**

という目標を立てられました。



皆さんが参加されているご様子です



目標は短冊に書き、飾りました

当日は、隣接しているデイサービスセンターで行事を行いました。グループホームの方々にとりましては外出している様な心持ちでおられ、いつもの日常とは違った緊張感の中で、ひと時を過ごされました。

発表の順番がお一人ずつ回ってくる中、いつもは遠慮がちなN様は、身を乗り出して堂々と発表されました。

また、直前まで「私の代わりに読んで下さいね」と言われていたI様も、いざマイクが回ってくると、少し恥ずかしそうにきれながらもご自分で一字一句、丁寧に読んで下さいました。

そして、いつもはユーモア溢れお元気なT様は、慎重な面持ちで照れくさそうに発表して下さいました。

日々お世話させて戴いている私達職員も、入居者様の新たな一面を拝見させて頂くことが出来ました。入居者様にとりまして私達にとりまして、新鮮で刺激になった行事でした。

更に、今回の行事を切っ掛けに入居者様から嬉しい提案がありました。この事につきまして、後のグループホームのページにて紹介いたします。

# 職員の目標

## デイサービスセンター

「ご恩返し」

介護職員 佐藤麻衣子

私は、今年で翠風園に働き始めて丸四年が経ちました。この仕事に就かせて戴いていると、大勢の方と出逢え、それがとても勉強になります。お一人おひとり別々の家庭で過ごされている中で、週に何度か利用して下さり、翠風園という一つの建物の中でもう一つの家族としていられる事がとても嬉しく思います。

今年の目標ですが、私は「ご恩返し」を目標にしたいと思いました。この仕事を続けさせて戴いているご恩返し。いつも声を掛けて戴いているご恩返し。色々ありますが、私は今まで恩恵を戴いてばかりで、お返しする事を本気でしていなかったと気付きました。

私にも後輩が出来、入ったばかりの初心者では無くなりました。ここまで来る為には、色々な事がたくさん起こり、その度に先輩方の一つ一つ指導を戴いてきました。



今日までこの仕事を続けて来られたのも、先輩方の支えがあったからだと思っています。

私はここで働かせて戴くまでは、人前で話すことが苦手でした。いつも人の話を聴いているだけでした。自分の意見などには自信が無く、表に出せないでいました。

しかし、今は皆様の目の前で話す機会を与えて戴き、いつも見守っていて下さる優しい利用者様の眼差しがあり、とても有り難く思います。そんな私の周りにはいる人々にご恩返しをしたいと思っています。

まずは、私が育てて戴いたことを思い出しながら、後輩を育てて行く事で、ご恩返しをしたと思います。

感謝の気持ちを込めて、ご恩返しに努めて行きたいと思えますので、どうぞ宜しくお願い致します。





# グループホーム

「人の意見を素直に聞き、  
分からね事をそのままにせず、  
そのつど理解するまで中途半端に  
終わらせないこと  
いやな事は進んですること」

介護職員 和田 恵子



この仕事をさせて戴いてから、一年八ヶ月になります。最初の自分を振り返ると、日々教えられた事を覚えること、入居されている方々を理解すること、毎日無我夢中で過ごしていたように思います。年も考えず、力が入りすぎ、手足が動かなくなったりの日々でした。

まだまだの自分ですが、毎日一つずつ覚えることで、納得した充実した毎日だったように思えます。

今、現在、自分はどうかだろうか。

周りから注意される事も少なくなると同時に、自分なりの行動、自分なりの言葉遣い、自己判断でしている事でハツとする事もあり、これで良いのだろうかと自問自答し、考える事が多くなりました。

また、頑張りすぎる事で、人の迷惑になる事があるという事を知りました。この事に携わってから、ゆっくりしゃべる。大きなはつきりした言葉で話す。いつも笑顔を忘れず。この三点はいつも頭において仕事をしてきたつもりです。

このことは続けていく事、そして二年目を迎える今年、ワンランクアップした自分を目指し、「人の意見を素直に聞き、分からね事をそのままにせず、そのつど理解するまで中途半端に終わらせないこと、いやな事は進んですること」を目標に、この一年を過ごそうと思っています。

来年の一月、成長した事が一つ二つ言えるような自分でありたい。振り返ったとき、良い一年だったと言えるような一年にしたいと思います。

# ヘルパーステーション

齋藤文子



趣味でやっているバレーボールの練習中に、足を捻挫してしまいました。それから三週間、松葉杖生活となり不自由さが身にしみている今日です。

私は翠風園に勤務して六年目になりました。ヘルパーステーションから利用者様のお宅に伺ってお世話をさせて戴く訪問介護員です。これまで多数の利用者様と関わらせて戴き、自分なりに利用者様の抱える気持ちを理解し、共感出来ていたとずっと思っていました。足をケガするまでは……。

左足首を痛め、地面に着くことが出来ないけれど松葉杖があるから何とかなるだろう、と軽く考えていましたら大間違い。痛む場所は患部だけで良いはずなのに、杖を支える脇の下、手の平に負担がかかり、とても痛むのです。それに体重を支える右足の大腿と両腕も筋肉痛になりました。

家事をするのに松葉杖でははかどらないので、家の中ではローラーのついた椅子に腰掛け、あちこち移動していました。歩くように素早い行動とは行きませんが、それでも松葉杖よりはずっと楽でした。

ところが、トイレやお風呂など日常の動作のなんと不自由なこと。つかまらずには普通に立つことも出来ず、ほんの少しの段差すら越えることが出来ないのです。足が腫れてむくんで

いるので身につけるズボンや靴下は限られ、靴にいたってはサンダルしか履くことが出来ません。

痛みで夜中に何度も目が覚め、朝は痛みで目を覚ますような毎日。家族の協力が絶対不可欠なのに、指示を出さないと進まない苛立ち。車の運転は出来るものの乗り降りが不便で、駐車場から目的の店内までの距離が長いこと。だからといって車椅子ではないので「車椅子用」駐車場に停めることには躊躇してしまうのです。砂利道、雪道、凍結道の怖さ。ほんの少し足が傾くだけで伴う激痛とバランスの崩れ。また転んでしまうのではないかという不安。そして親切にしてくれる同行者への有り難さと申し訳なき……。こんな風に生活をしていると、利用者様方の生活の様子と、話して下さっていたお気持ちの言葉がとても頭に響いてくるのです。今まで何度も何度もこの様なお話を耳にし、自分のこの時の状況はまさに利用者様の日常と同じ感覚なのだと思えました。

まず、杖がこんなに苦痛を伴うものだとはまったく想定外でした。若い私でさえ、あちこちの痛みを増やしながら杖をついていたのですから、高齢者の皆様にはどんなに難儀な事であったでしょう。色々なところに不快感を感じながら、杖を使用されているのではないのでしょうか。外から見ただけでは分からない苦しみがあるのかもしれない、とこの時気付きました。



「出掛けたいけど、おっくうだ」と言われる方も沢山おられます。そんな時、「子供さんに車椅子を押して載いて、出掛けられたらどうでしょう？」など軽く返答していましたが、甘い考えだったようにも思えました。私も自分で操作して、また子供に押しってもらうと出先の大型スーパーで車椅子を使ってみました。視線が低く上の方に展示されているものが満足に見えないばかりか、見たいお店の通路が狭くて入れません。車椅子のまま立ち止っていると、他のお客様の邪魔になるのではないかと端っこに寄ってただ佇み、<sup>たまたま</sup>買物をする気力を失いました。障害者用のトイレは数が少なく、ずいぶん離れているところまで移動しなければなりません。そこまでハンドルを回す腕は疲労感がたっぷりという感じでした。これでは買物に行きたとしても、リフレッシュどころかストレスを溜めて帰るようなものです。これも経験してみても、初めて気付いた事でした。例を挙げて思う事はまだあるのですが、利用者様の根底で渦巻く切ない気持ちは、自分の想像を超えて、さらに大きく深いものがあるに違いないと思える様になったのは私にとって収穫で、ケガの経験も悪いものではなかったと思っています。私は「必ず治る」という希望がありますが、利用者様は「いつまでこんな状態なんだ」と先行きの明かりさえ見え、それがどんなに辛いことでしょう。嘆き泣いて苦しまれる利用者様には、もつと深い部分での心のケアをしてあげられたらと思いますし、不平不満をもらさず凛として不自由さを受け止めておられる利用者様には、尊敬の念で頭が下がる思いです。身体が不自由ですと、思考も後ろ向きになりがちです。思うように動けないことから悪循環に気持ち空回りし、絶望感と虚無感との戦いは安易に起こりうる事だとも実感致しました。

その時々弱っているところに、優しくケアが出来ないものかと考えている毎日です。

私が出来ることがほんの微力でしかないのかもしれませんが、利用者様の抱えている葛藤を少しでも和らげてあげられる様になるのが、私自身の目標でもあります。

「痺いところに手が届く介護」を今まで目指していましたが、まさにそういうところが重要なのだと、心を引き締めたところでした。「若い時に無理をすると、年を取ってから大変なことになる」と、これも利用者様によく言われた言葉です。この言葉も今の自分に課し、ケガをしつかり治して完全復帰したいです。

利用者様の「分かってくほしいこと」の核をつかみ、分かってくあげられるような人間になれる様に、これからは身体と精神を鍛え頑張っていくと思います。

### 《追記》

利用者のI様は、三十数年前に脳内出血による右半身麻痺を発症されてから、多発性関節リウマチ、脳内出血の再発による右片麻痺、左膝の骨折、左上腕部の骨折などの経験をされ現在にいたっています。後遺症は残り、歩行や日常生活にはかなりの負荷がかかっているのは容易にみとれます。けれど、出来るところはご自分でやろうという意欲がとても強く、人を頼りにするのは最後の最後の手段とされている様です。人には決して理解出来ない位の苦痛があるでしょうに、いつも笑顔で前向きに過ごされている姿には頭が下がります。

I様からは、現実をしつかり受け止め向き合っていくこと、そこから前へ進むこと、あきらめない気持ちなど教わり勇気を戴いています。



# グループホーム

## ひな祭り会



グループホームでは、三月四日にひな祭り会を行ないました。

当日は、日々生活を共にさせて戴いております、入居者様の前で、日頃の感謝の想いを込めて、グループホームの職員が、それぞれお茶、お箏、日本舞踊を披露させて頂きました。

普段とは違う装いで、職員が華やかな桃色の着物に身を包み、お箏の名曲「六段の調べ」の中でお茶を戴きました。皆様、「美味しい！」との歓声が上がりました。

又、桃の節句をお祝いし、美しいお箏の音色に合わせ「うれしいひな祭り」と「さくらさくら」を全員で合唱しました。その場にいた皆の想いが一つとなって響き渡り、四季折々に繰り広げられる日本の節句は、いいものだなあ。と心がホワツとなった一時でした。

そして、お扇子で荒城の月をイメージして舞うという「扇子舞(せんすまい)」は、これまた趣のある着物姿での、艶やかな舞に拍手が鳴り止みませんでした。



とても華やかで、和やかな雰囲気の中、皆様にも大変喜んで戴き、笑顔と拍手に包まれたひな祭り会となり、とても嬉しく思いました。

今回のこの行事は、グループホーム内の二つのユニット、「萌木」と「花浅季」が一つになって協力し合い行いました。

それは、年初めに、施設長より『今年は、翠風園の全事業所(デイサービス、ヘルパーステーション、グループホーム)が、事業所間の枠を取り払って、一つとなり統合して参りましょう!』と、翠風園全体が目指す目標としてのお話がありました。それに伴い二月には、デイサービスとグループホームが合同で節分祭を執り行いました。

そして三月の行事も、「今度は一番身近なグループホーム内の両ユニットでも合同に行事を行ないましょう!」と何処からともなく声上がり、合同で執り行う運びとなりました。







グループホーム花浅季ユニットの入居者K様は、デイサービスの建物内で行なわれた、二月行事の節分祭に参加された後、御自分が生活されているグループホームの建物に戻って来た際に、次の様にお話し下さいました。

「いつも何かイベント事がある時は、よそへ出掛けて行くばかりだ。お客さんとして行くのもいいけれど、たまには、家の方（御自分の生活しているユニット）にも皆さんに来て貰いたいなあ。『人様を招く』という事も、やってみなければ分らない事が多いんだよ。皆さんが（職員の事）率先して何か計画をしてやって下さいよ！」と仰ったのです。そのK様のお言葉にハツとなり、私達が気付かなかった事を教えて戴きました。

実は、次の行事予定に上がっていたひな祭り会も、お茶やお筆の披露という事もあり、畳のスペースがあるお隣の萌木ユニットで行ないましょう、との話が進んでおりました。しかし、K様の「いつもお邪魔してばかりだから、今度は私達が、人様を招き日頃の感謝をお返ししたい」というお気持ち大切にしたい。又、私達職員もK様の仰る「『人様を招く』という事もやってみなければ分らない事が多い」というお言葉通り、勉強になるだろうと思いい、何とか工夫して、K様の居られる花浅季のユニットで行ないましょう！という事になりました。



当日は、赤い毛氈（もうせん）が用意され、春の訪れを感じさせてくれる花々があちらこちらに飾られたりと、とても暖かな雰囲気の中、行なわれました。

大柄なK様は、「自分は大きくて、他の人が見えないと悪いから・・・」と言われ、会場の一番後ろの席に座り見学されました。

そして会が終わわり、来て下さった萌木の入居者様をお送りする際には、得意のハーモニカで蛍の光を吹かれ、最後のお一人の後に御自分が続かれ、皆様を最後までお見送りされました。

K様のそのお姿や行動から、来て下さった方を気遣い、心から歓迎するという、人様を招く側の心構えや、歓迎の気持ちを教えて戴いた様に思いました。

又、K様の自然に振る舞われる行動こそが、施設長がお話し下さった、「一つとなり統合して参りましょう！」というお言葉に象徴される、お姿の一端を表して下さっている様にも思いました。

今後も、皆様の心のお声に耳を傾け、又、お気持ちを感ず汲み取れる様な、目と心を育みながら、皆様と過ごさせて戴く日々の生活の中において、K様を見習い、自分達の足元から統合の姿を目指して参りたいと思えます。



# デイサービスセンター

## 利用者様の心に残った出来事 その一

昨年の二月、デイサービスセンターにおいて職員と利用者様全員で「一年の目標」を立てて戴きました。そして年末の十二月行事は、二月に立てた目標を振り返るとともに、平成二十年という年に感謝する会として、「今年一年への感謝祭」を行いました。その中で、利用者様から多くの感想を戴いたのですが、印象に残った話をお二人ご紹介させて戴きます。

利用者のA様は二月に、一年の目標を「人様から戴いた恩恵に感謝する一年としたい」と決められました。その経緯は、ある日のご利用時、「佐渡の朱鷺」のドキュメンタリーを放映した事がありました。ご覧になったA様は、目に涙を浮かべられて「いいものを見せて戴きました。私の名前もトキなので、まるで自分の事のように感激しましたよ。私もこれまで多くの方々から愛情を貰い、また育てて戴いて来たのですよね。でもその恩恵を省みることもなく、ここまです生きて来てしまいました。翠風園に来てから『感謝』が大事であることを聴いていましたので、今年はこれまで戴いてきた恩恵に感謝をする年にしたいと思います」との事でした。

私達職員はこのお話を聴かせて戴いて、A様の素晴らしい感受性と謙虚なお姿に感動致しました。

そして、十二月に一年を振り返った際には次の様なお言葉を述べられました。

「私はね、翠風園に来て『いいなあ』と思っっているんです。何でもかんでも素晴らしい。人間の素晴らしさを、ここに集約していると思います。

人間がやりたいと思うことを、自分では知らないでいるのに、ここにいとスーと入っていくんです。人間の欲望を知らぬ間に満たしてくれる。だから楽しくてまた来たくなくなる。

それで今日またここに来ました。やっぱり翠風園が良いと思います。今年一年、皆様本当に有り難うございました」と、お話しして下さいました。

当日はお一人おひとりの前に職員がマイクを持って回り、利用者様から扇型の短冊に書かれている内容を読んで戴きますが、時には代読する時もあります。しかしA様は当日、ご自分でマイクを真っ先に持たれ、短冊は殆ど見ずに想いを込めながら発表して下さいました。

A様がこの一年、ご自分の人生を振り返りながら、目標に向かって過ごして来られた証だと思えます。その中で「感謝」を身につけられたお姿は、私達職員を啓発して下さいました。本当に有り難うございました。





## 利用者様の心に残った出来事 その二

続きまして、利用者のB様のお話を紹介させて戴きます。十二月行事が終わった数日後、ケアマネージャー様が来園され、B様を交えて担当者会議を行っていました。

その際、B様が次の様なお話を聴かせて下さいました。

「私は翠風園さんに本当に感謝しています。ここでお世話になるようになってから、もうすぐ一年になるうとしていきます。」

当時の私は、家族の介護をしていて自分で気付かないくらいに心身ともに疲れ果てていました。その内に自分が倒れてしまっ、周りの人が心配してデイサービスの利用を勧めてくれました。

来てみてまず驚いたのが、皆さんの「今年の目標」が壁一面にズラリと貼ってあったことです。これまでの人生で、目標を立てるとかそんな事は考えたこともなかったのですが、職員の方々が私に色々と言明して下さいました。

私はこの先、何にも良いことはないだろうと考えていましたが、職員さんの話を聴いていたら「小さい幸せでいいから、希望を持って一年頑張ってみよう」と心に思いました。

その後、私が介護をしていた家族が亡くなり、しばらくは落ち着かない日々を過ごしていましたが、私の心の支えは

翠風園の皆さんでした。私は月に数回しか来ないので、この日が楽しみで楽しみで仕方ありません。今では仲の良い友達も出来ましたし、職員の皆さんが本当の家族の様に接してくれて有り難いです。

この前（十二月行事）、皆で一年を振り返りましたよね。家族が亡くなった時は、私もこうして一年を過ごすことさえ出来ないと思っていましたが、ここに通り続けるようになってから張り合いが出来、生きる気力が湧いてきました。そして、ようやく今の生活も幸せだと思えるようになりました・・・。

今はね、もう一年、いやもう少し生きて毎日を楽しみたいと思えるようになりました。この様な気持ちにさせてもらって本当に感謝しています。これも目標のお蔭ですね。もうすぐ二月になるから、新しい目標を考えなくてはね・・・」

と、しみじみお話しして下さい、聴かれていたケアマネージャー様も「翠風園を紹介して良かったです」と喜んで下さいました。

人生において「生きがい」を持つこと、「目標の尊さ」を体験談をもとに教えて戴きまして、本当に有り難うございました。



## \* \* よりよいひかり通信を目指しています \* \*

私は、「ひかり通信」の編集長をさせて戴いております捧彰子です。普段はデイサービスで介護と生活相談員業務を担っております。編集長という役目を戴いてまだ不慣れなことばかりですが、今回紹介させて戴きます頼もしいメンバーと共に取り組んでいます。

私達編集部は発行するまでの間、多くの方々から、物事の進め方や捉え方を一つ一つご指導戴いています。作業の過程で気付くことが多く、とても勉強になります。いつも活躍して下さるパソコン、印刷機、用紙等も新聞作りには欠かせない重要なスタッフだと実感する事が出来ました。

最近心掛けておりますことは、身の周りに起こる出来事を敏感にキャッチできるように、自分のアンテナを増やしていく事です。まだまだ勉強中ではありますが、観察力を養うことは、日常の業務にも生かすことが出来、大変有り難く感じております。

先日、利用者様から「毎回、ひかり通信を楽しみにしていますよ」と声を掛けて戴き、とても嬉しく思いました。「ひかり通信」は、私達を育てて下さる利用者様、ご家族様、関係者様、地域の皆様へ、翠風園での出来事をお伝える通信ですので、編集部一同、多くの方々から戴いている恩恵に対して感謝の心を忘れずに、気を引き締めてこれからも携わって参りたいと思います。

生活相談員 捧 彰子



酒井義喜

捧彰子

押味千代子

## \* 情報を生かす編集を心掛けています \*

ひかり通信も今回で第4号となりました。元々編集の経験の無かった私共でしたが、創刊号より手作りをモットーに試行錯誤しつつ、一つ一つ自分達で創造していく喜びを感じながら制作に打ち込んでいます。

普段は事務の業務に従事しておりますので、園内の現場は介護職員と違い分からないところが多々あります。

そのような中で編集作業をすることにより、利用者様の純粋なお姿や尊いお言葉に気付き、改めて学ぶ機会となり、私にとって誠に有意義な時となっております。

これからも、内容・デザイン・構成に翠風園ならではの温かみをのせ、園での活動を読者の皆様に分かりやすくお伝えできるよう努力して参りたいと思います。

事務員 酒井 義喜

## \* 文章を生かすデザインを勉強中 \*

編集を通じて、一つの物を作る事の苦労や大変さ、出来上がった時の充実感や達成感を感じています。写真撮りからデザインまで全て手作りだからこそ生まれる温かさがあるのではないかと思います。

私は昔から絵を描いたり、デザインを考える事が好きでしたので、このひかり通信のデザインをさせて戴ける事が、本当に有り難いです。自分が作る立場になった事で以前よりも、雑誌や広告等のデザインを観察する力が付いた様に思います。

また、今度はどんな記事にしようかと、書きたい内容を探す事も楽しくなり、とても充実した毎日を過ごせる様になりました。これからも新鮮な情報をお伝えしたいと思います。

介護職員 押味 千代子